

---

## 5年間の総括

---

# 第2期食と農業農村振興計画推進についての総括

本県の農業及び農村は、豊かな自然環境のもと、農畜産物の生産と安定供給による農畜産物の総合供給基地としての役割を果たすとともに、県土の保全、水資源のかん養、生産活動を通じたふるさとの原風景の保全や食文化の形成など、多様な役割を發揮することにより、県民や地域を訪れる人々に明日への活力とやすらぎを提供してきました。

県では、このような役割を一層高めるため、平成24年に平成25年度から平成29年度での5年間を計画期間とする「第2期長野県食と農業農村振興計画」を策定し、本県の食と農業・農村に関する施策の基本となる計画であるとともに、農業者、消費者を問わず、全ての県民の「食」と「農」に関する指針として産業としての農業の振興と暮らしの場としての農村の創造に向け、2つの基本方向に沿って施策と展開してきました。

## 1 食と農業・農村の経済努力目標の達成状況

平成29年の農業農村総生産額(推計)は3,083億円で、基準年(平成22年)の2,908億円と比べて175億円の増(基準年対比106.0%)となった。

第2期食と農業農村振興計画における計画最終年(平成29年)目標の3,050億円に対して33億円の増(目標対比101.1%)となり、目標を達成した。

### ➤ 農産物産出額(注1)

農産物産出額(推計)は2,841億円で、基準年(平成22年)の2,738億円と比べて103億円の増(基準年対比103.8%)となった。

平成29年度目標の2,800億円に対しては、41億円の増(目標対比101.5%)である。

これは、米の需給調整に伴う需給の引き締めにより米価の上昇や、果樹のオリジナル品種への改植等が進み、単価が増加傾向になり産出額が増となったことなどによるものである。

### ➤ 農業関連産出額(注2)

農業関連産出額(推計)は242億円で、基準年(平成22年)の170億円と比べて72億円の増(基準年対比142.4%)となった。

平成29年度目標の250億円に対しては、8億円の減(目標対比96.8%)である。

これは、農村への関心の高まりによる都市農村交流の活発化や、6次産業化に取り組んだ農業者の事業実績が向上したことなどによるものである。

### 長野県の農業農村総生産額(長野県推計)

区 分	22年 (基準年)		24年	25年	26年	27年	28年	29年 ①	基準年比 29年/22年		29年 (目標年) ②	①/②
	億円	%							%	%		
農産物産出額	2,738	100.0	2,726	2,832	2,818	2,916	2,901	2,841	103.8	103.8	2,800	101.5
米	428	15.6	513	491	402	422	450	478	111.7	111.7	473	101.1
麦類	5	0.2	4	3	4	4	4	4	80.0	80.0	5	80.0
雑穀・豆類	13	0.5	12	12	11	13	10	13	100.0	100.0	16	81.3
野菜	801	29.3	693	819	848	899	869	768	95.9	95.9	790	97.2
果実	485	17.7	560	515	544	558	553	574	118.4	118.4	490	117.1
花き	161	5.9	153	154	144	149	148	142	88.2	88.2	160	88.8
その他の農産物	62	2.3	68	65	68	67	66	67	108.1	108.1	72	93.1
畜産	288	10.5	274	286	301	308	311	316	109.7	109.7	305	103.6
栽培きのこ	495	18.1	449	485	496	496	490	479	96.8	96.8	490	97.8
農業関連産出額	170	100.0	191	199	201	202	216	242	142.4	142.4	250	96.8
水産	55	32.4	51	50	50	50	55	58	105.5	105.5	57	101.8
農産加工	55	32.4	61	65	68	71	78	98	178.2	178.2	108	90.7
観光農業	60	35.3	79	84	83	81	83	86	143.3	143.3	85	101.2
農業農村総生産額	2,908	—	2,917	3,031	3,019	3,118	3,117	3,083	106.0	106.0	3,050	101.1

(注1) 農産物産出額

平成22年産から平成27年産は、農林水産省大臣官房統計部公表数値である。

平成29年産は現在公表されていないため、県農政部の推計値である。(農林水産省公表の作物別生産量等に、JA等の販売単価等を基に県が独自推計した単価を乗じて算出した)

(注2) 農業関連産出額

県農政部の推計値である。

○主な農産物の平成29年目標に対する達成率

	H22 (基準年)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (推計)	H29 (目標)
農産物産出額計	98	98	97	101	101	104	104	101	100
水稲	面積	103	102	102	102	101	99	97	100
	生産量	101	99	100	104	97	96	98	100
	単価	89	105	109	100	88	93	97	104
	産出額	90	104	108	104	85	89	95	101
野菜	面積	105	105	103	104	103	103	102	100
	生産量	98	103	104	103	102	102	106	122
	単価	104	96	85	100	106	112	104	80
	産出額	101	99	88	104	107	114	110	97
果樹	面積	103	103	102	101	99	98	98	98
	生産量	90	88	104	93	101	97	90	91
	単価	110	111	110	113	110	118	125	129
	産出額	99	98	114	105	111	114	113	117
畜産	生産量	101	97	97	95	92	91	88	85
	単価	94	94	93	99	107	111	115	122
	産出額	94	91	90	94	99	101	102	104
	きのこ	90	94	91	89	90	90	92	94
きのこ	単価	113	102	101	112	112	112	109	104
	産出額	101	96	92	99	101	101	100	98

➤平成25年以降の主要農作物の生産動向

【水 稲】

- 栽培面積は、需給量の減少により生産調整面積が強化されたことから減少傾向にある。
- 生産量は、栽培面積の低下に伴い、作況による増減はあるものの、減少傾向である。
- 単価については、平成26年に流通在庫の増加により価格が大幅に下落したが、平成27年以降は需給が引き締まり、上昇している。
- 平成29年の産出額は478億円で、目標473億円に対し101.1%の達成率であった。

【野 菜】

- 栽培面積は、年々減少傾向にある。
- 生産量は、計画生産に努めているところであるが、気象の影響等により増減を繰り返している。
- 単価については、平成26、27年は高値で推移していたが、平成29年は好天に恵まれたことから豊作となり、全国的な生産過剰に伴い価格下落が生じた。
- 平成29年の産出額は768億円で、目標790億円に対し97.2%の達成率であった。

【果 樹】

- 栽培面積は、ここ数年、生産者の高齢化や減少に伴い、栽培面積の減少が進んでいたが、平成29年は県オリジナル主要品種等に対する市場評価の高まりにより、生産意欲が増しており、増加に転じている。
- 生産量は、新しい品種への改植による樹園地の若返りが進むなど、単収が低くなり減少した。
- 単価については、平成25年以降、高めに推移している。
- 平成29年の産出額は574億円で、目標490億円に対し117.1%の達成率であった。

【畜 産】

- 生産量は、年々減少傾向にある。
- 産出額は、子牛販売単価の上昇に加え、健康志向等により需要が増加した鶏肉、品質の高い牛肉・豚肉の生産により増加傾向がみられる。
- 平成29年の産出額は316億円で、目標305億円に対し103.6%の達成率であった。

【栽培きのこ】

- 生産量は、規模拡大が進んでおり、平成25年以降増加傾向である。
- 単価については、生産量の増加による供給過多から全体的に低下傾向が進んでいる。
- 平成29年の産出額は479億円で、目標490億円に対し97.8%の達成率であった。

## 2 施策の展開毎の達成状況

### I 夢に挑戦する農業

#### ①夢ある農業を実践する経営体の育成

- ・高い技術と経営力を持つ企業的農業経営体の育成を促進し、これらの経営体が地域農業の主力となる農業構造への変化を目指すとともに、高齢農家や兼業農家等地域の多様な農家を含めて、効率的な営農を展開する組織経営体の育成等を促進しました。
- ・この間、農地中間管理機構を活用した担い手への農地の集積を進めたほか、集落営農組織の育成・法人化への支援や新規就農者の確保から中核となる農業経営体への育成までをステップアップ方式できめ細かに支援する等の取り組みを行いました。
- ・その結果、法人化した経営体の数が基準年(H22)から約3割増となったほか、集落営農組織数が基準年から約5割増となりました。

【経営を法人化した経営体の数】 H22 : 758 経営体→H29 : 1,005 経営体

【集落営農組織数】 H22 : 212 組織→H29 : 324 組織

#### ②自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

- ・マーケットインの生産と環境農業への取り組みを基本に、県内で育成されたオリジナル品種や本県の立地条件を活かした販売力の高い品目・品種の導入、新たな技術の導入等を進めました。
- ・実需者ニーズの高い県オリジナル品種への生産を誘導し、米（「風さやか」）、麦（ホワイトファイバー）、そば（「信州ひすいそば」）等の土地利用型作物、りんご（シナノスイート等）、ぶどう（ナガノパープル等）等の果樹でそれぞれ基準年から大幅な増加となり、産地化が図られました。

【米（「風さやか」）】 H22 : 0ha→H29 : 1,068ha

【土地利用型作物】 H22 : 311ha→H29 : 933ha

【果樹】 H22 : 1,190ha→H29 : 1,964ha

- ・環境にやさしい農業を推進し、集団で取り組むエコファーマーの認定組織数が増加したほか、信州の環境にやさしい農産物認証面積も増加しており、環境にやさしい農業に取り組む農業者の面的広がりが進みました。

【エコファーマーの認定組織数】 H22 : 126 組織→H29 : 263 組織

【信州の環境にやさしい農産物認証面積】 H22 : 1,483ha→H29 : 1,795ha

#### ③信州ブランドの確立とマーケットの創出

- ・信州農畜産物の統一ブランドとしての「おいしい信州ふーど（風土）」の認知度を高め消費拡大及び生産拡大を図りました。
- ・意欲ある農業者による輸出を促進するとともに、6次産業化への支援により農業の産業としての裾野を拡大する取り組みを行いました。
- ・「おいしい信州ふーど（風土）」については、大使、公使、名人と連携し、信州農畜産物の魅力を発信した結果、県内の認知度が67%まで高まりました。
- ・輸入事業者の県内招へいや長野県産農産物のPR等を実施し、香港、台湾への出荷が果樹を中心に増加し、農産物等の輸出額が5年前の約8倍、目標対比の約2倍の実績となりました。

【「おいしい信州ふーど（風土）」県内認知度】 H24 : 24%→H29 : 67%

【農産物等の輸出額】 H25 : 121,900 千円→H29 : 1,036,000 千円

## Ⅱ 皆が暮らしたい農村

### ①農村コミュニティの維持・構築

- ・農業者と地域の非農家住民や県内外の都市住民とが地域資源を共有し、活用することにより、人と人、農村と都市とのつながりを強化し、農村コミュニティを維持・構築することにより自活できる農村を目指しました。
- ・農業者が直接都市住民と触れ合うことができる直売所の整備や地域農産物を活用した農産物加工体験等を通じた都市住民との交流を促進し、長野県に訪れた都市農村交流人口が基準年から約 1 割強増加しました。

【都市農村交流人口】H22：546,544人→H29：622,241人

### ②地産地消と食に対する理解・活動の促進

- ・自然豊かな環境で生産される安全で良質な信州農畜産物の積極的な情報発信を強力に進めるなどの地産地消の推進とともに、学校・保育所における食育活動を推進し、農村における食文化の形成を通じて健康で豊かな暮らしの実現を目指しました。
- ・地産地消推進キャラクター「旬ちゃん」による学校・保育所への学校訪問や食育ボランティア等との連携により地産地消、食育を推進しました。

### ③美しい農村の維持・活用

- ・農業・農村の持つ多面的機能が将来にわたって発揮されるよう、農地や農業用水を守り、野生鳥獣による農作物被害を低減する等の営農を継続する取り組みを推進しました。
- ・多面的機能支払事業や中山間直接支払事業等の国の事業を活用するとともに、シンポジウムや研修会による事業制度の周知や機運の向上を図ったことにより地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積が基準年から約 2 倍に増加しました。
- ・野生鳥獣対策チームが市町村等と連携し、集落ぐるみによる被害対策の体制整備を推進した結果、野生鳥獣による農業被害額が減少しました。

【地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積】H22：22,484ha→H29：45,574ha

【野生鳥獣による農業被害額】H22：931,166千円→H29：550,842千円

### 3 達成指標別の達成状況（5か年総合評価）

進捗管理を行っている30指標32項目のうち、第2期食と農業農村振興計画における計画最終年（平成29年）目標を達成した項目は11項目で、全体の8割にあたる25項目が目標を概ね達成しました。

H29年度目標値 に対する達成率	100%以上 ◎	80%以上 100%未満 ○	50%以上 80%未満 △	50%未満 ×
指標項目数 【割合】	11 【34%】	14 【44%】	6 【19%】	1 【3%】

[平成29年度目標を達成した指標項目数 11項目]

施策の展開	No.	項 目	平成22年 (基準年)	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	達成率 (H29実績値 /H29目標値)
① 夢ある農業を実践する 経営体の育成	1	経営を法人化した経営体の数 法人	計画値	810	840	906	900	112%
			実績値	758	876	918	1,005	
	2	企業的農業経営体等の数 経営体	計画値	8,400	8,600	8,800	9,000	96%
			実績値	7,939	7,991	8,267	8,415	
	3	担い手への農地利用集積率 %	計画値	44	46	50	53	79%
実績値			39	41	41	42		
4	集落営農組織数 組織	計画値	228	240	260	250	130%	
		実績値	212	249	281	326		
5	40歳未満の新規就農者数 (単年度) 人	計画値	250	250	250	250	84%	
		実績値	190	253	244	211		
② 自信と誇りを持てる信 州農畜産物の生産	6	環境にやさしい米づくりの面積 ha	計画値	1,551	1,680	1,771	1,887	75%
			実績値	1,226	1,322	1,420	1,561	
	7	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(米) ha	計画値	320	900	1,100	1,260	85%
			実績値	0	588	913	1,068	
	7	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(麦・大豆・そば) ha	計画値	696	780	900	950	98%
			実績値	311	761	877	996	
	8	果樹オリジナル主要品種等の栽培面積 ha	計画値	1,840	2,000	2,160	2,320	85%
			実績値	1,190	1,639	1,763	1,860	
	9	りんご新しい化栽培面積 ha	計画値	280	350	420	500	63%
			実績値	0	209	227	315	
	10	販売額20億円以上の野菜品目数 品	計画値	11	11	12	13	85%
			実績値	11	11	11	11	
	11	生産量全国1位の花き品目数 品	計画値	6	7	7	8	88%
			実績値	6	7	7	7	
	12	生産量全国1位のきのこ品目数 品	計画値	4	4	4	4	75%
			実績値	4	4	3	3	
	13	信州サーモン生産量 t	計画値	330	345	360	375	105%
実績値			220	330	345	395		
14	三倍体の大型イワナ生産量 t	計画値	0	0	20	30	20%	
		実績値	0	0	1	6		
15	信州プレミアム牛肉の認定頭数 頭	計画値	2,950	3,600	3,650	3,700	102%	
		実績値	844	3,152	3,242	3,477		
16	エコファーマーの認定組織数 組織	計画値	200	230	270	310	85%	
		実績値	126	179	213	263		
17	信州の環境にやさしい農産物認証面積 ha	計画値	1,780	1,900	2,040	2,200	82%	
		実績値	1,483	1,627	1,763	1,795		

基本方向	指標数	H29年度目標値に対する達成割合別指標項目数						
		100%以上	100～90	90～80	80～70	70～60	60～50	50%未満
①	5	2	1	1	1	0	0	0
	割合	40%	20%	20%	20%	0%	0%	0%
②	16	3	2	6	2	2	0	1
	割合	19%	13%	38%	13%	13%	0%	6%
③	5	3	0	1	0	1	0	0
	割合	60%	0%	20%	0%	20%	0%	0%
④	1	1	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
⑤	2	1	1	0	0	0	0	0
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%
⑥	3	1	1	1	0	0	0	0
	割合	33%	33%	33%	0%	0%	0%	0%
計	32	11	5	9	3	3	0	1
	割合	34%	16%	28%	9%	9%	0%	3%

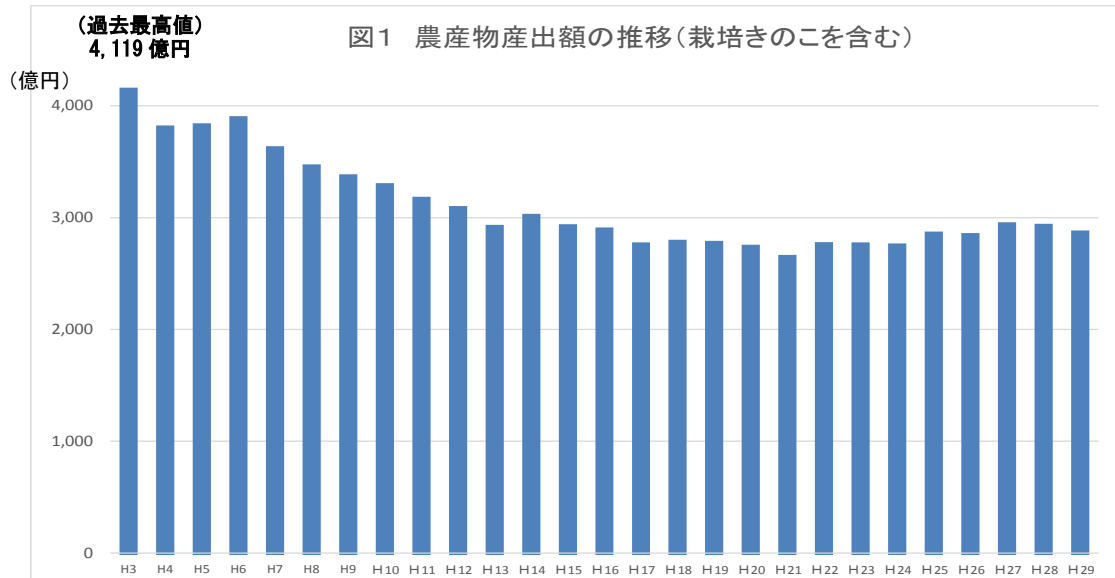
施策の展開	No.	項目	平成29年目標達成	5か年の総合評価
①	1	経営を法人化した経営体の数	◎	経営コンサルタントの派遣による法人化支援等に加え、企業の農業参入セミナーの開催や農業参入セミナーへの出展等の取組により、目標を上回った。
	2	企業的農業経営体等の数	○	平成22年と比較して増加したものの、複数戸から構成されている大規模法人経営体の育成が進んだこともあり、目標には達しなかった。
	3	担い手への農地利用集積率	△	農地中間管理事業を基軸とした推進により、集積は着実に進んでいるが、中山間地域等の条件不利農地や園芸地帯（樹園地）での集積が進まず、目標を下回った。
	4	集落営農組織数	◎	関係機関と連携し、組織化を進めたことで、当初目標を大きく上回った。
	5	40歳未満の新規就農者数（単年度）	○	近年、有効求人倍率が高水準で推移しており、他産業との人材獲得競争が激化する影響を受け、新規就農者数は、目標を下回った。
②	6	環境にやさしい米づくりの面積	△	平成25年と比較して面積は増加したものの、各制度の認知度が十分でないことや原産地呼称の食味官能審査で不合格となる事例も多く、目標まで達成することができなかった。
	7	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積（米）	○	「風さやか」の栽培面積が年々増加し、平成27年に当初目標（800ha）を上回ったため、目標面積を上方修正した。新たな目標には到達できなかったが、平成25年度の約6倍となり、認知度、需要量とも向上している。
		実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積（麦・大豆・そば）	○	J Aグループ等関係機関との連携による産地誘導や研修会等におけるPRにより、小麦「ハナマンテン」、大豆「すずほまれ」、そば「長野S8号」の栽培面積が平成25年度と比較し、それぞれ約100ha増加した。
	8	果樹オリジナル主要品種等の栽培面積	○	生産者の栽培意欲は高まっているが、特定の品種への注文が集中し、苗木供給が間に合わなく、目標を下回った。
	9	りんご新しい化栽培面積	△	高密植栽培の普及により、単位面積当たり定植本数が当初計画よりも多くなったことや、良質な種苗が不足したことから、目標を下回った。
	10	販売額20億円以上の野菜品目数	○	実需者ニーズの高い品目を中心に生産振興や安定生産の推進を図ったため、概ね目標達成ができた。
	11	生産量全国1位の花き品目数	○	輸出向け品目（ランキユラス等）や、花木類の生産振興により、一部品目で生産力が高まったが、全国1位には及ばなかった。
	12	生産量全国1位のきのこ品目数	△	えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギは圧倒的な全国シェアを維持しているが、なめこについては他県の生産拡大により順位が下がった。
	13	信州サーモン生産量	◎	稚魚の増殖及び安定供給並びに生産者の飼育技術の向上により目標を上回る生産量を達成できた。
	14	三倍体の大型イワナ生産量	×	技術的問題から稚魚の供給が計画より後ろ倒しになったこと、及びH26、H27の稚魚の供給が計画量を下回ったことから、目標を達成できなかった。現在、技術的問題は解決済み。
	15	信州プレミアム牛肉の認定頭数	◎	信州あんしん農産物生産認定農場と認定市場を新規に認定することで生産・流通の増加を図り、目標を達成できた。
	16	エコファーマーの認定組織数	○	直売所の参加する研修会の場で、エコファーマーマークの活用事例を紹介するなどPRに取り組んだ結果、目標には達しなかったが、取得組織数は増えた。
17	信州の環境にやさしい農産物認証面積	○	販売先との信頼の確立により、認証の取得を止めてしまう生産者もいたことで、目標には達しなかったが、認証取得者の増加や規模拡大により面積は増加した。	

	18	生産者GAPに取り組むJA 生産部会・農産物直売所の 割合	%	計画値	23	28	34	39	62%
				実績値	13	19	20	23	
	19	農業用水の安定供給及び排 水機能が確保される農地面 積(H25～H29)	ha	計画値	3,000	15,000	18,500	20,000	95%
実績値				—	12,561	14,920	16,652	18,950	
20	遊休農地の再生・活用面積 (単年度)	ha	計画値	600	600	600	600	116%	
			実績値	393	646	519	991		698
③ 信州ブランドの確立と マーケットの創出	21	「おいしい信州ふーど(風 土)」の認知度(県内)	%	計画値	60	65	70	75	90%
				実績値	24	52	66	54	
	21	「おいしい信州ふーど(風 土)」の認知度(県外)	%	計画値	10	15	20	25	67%
				実績値	—	16	18	14	
	22	県が主催する商談会におけ る農業者等と食品産業等と の成約件数	件	計画値	100	150	200	250	101%
				実績値	—	108	158	208	
23	農産物等の輸出額	千円	計画値	123,000	200,000	315,000	500,000	207%	
			実績値	—	206,000	386,172	563,656		1,036,000
24	六次産業化法に基づく総合 化事業計画の認定数	件	計画値	90	94	94	94	101%	
			実績値	—	91	91	93		95
④ 農村コミュニティの維 持・構築	25	都市農村交流人口	人	計画値	578,000	580,000	590,000	600,000	104%
実績値	546,544	599,351	604,427	624,909	622,241				
⑤ 地産地消と食に対する 理解・活動の促進	26	農産物直売所数	店	計画値	830	830	835	840	92%
				実績値	814	822	788	805	
27	食育ボランティア数	人	計画値	18,500	19,000	19,500	20,000	106%	
			実績値	15,770	18,111	18,370	21,254		21,254
⑥ 美しい農村の維持・活 用	28	地域ぐるみで取り組む多面 的機能を維持・発揮するた めの活動面積	ha	計画値	25,537	39,650	44,650	50,000	91%
				実績値	22,484	33,786	38,391	40,827	
	29	農業用水を活用した小水力 発電の容量	kW	計画値	1,900	2,000	2,100	2,200	132%
実績値				220	1,884	2,076	2,184	2,900	
30	農地等の安全確保面積 (H25～H29)	ha	計画値	300	1,350	1,400	1,800	84%	
実績値	—	243	1,106	1,169	1,511				



	18	生産者GAPに取り組むJA生産部会・農産物直売所の割合	△	JAグループ部会組織の取組の拡充と直売所での普及により、GAP取組組織は増加したが、目標には達しなかった。
	19	農業用水の安定供給及び排水機能が確保される農地面積(H25～H29)	○	県営かんがい排水事業等により、基幹的農業水利施設の更新整備等を実施し概ね目標を達成した。
	20	遊休農地の再生・活用面積(単年度)	◎	遊休農地等解消月間における研修会での機運醸成や、荒廃農地等利活用促進交付金等の活用した取組により、目標を上回り達成した。
③	21	「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度(県内)	○	基準年より43.3ポイント認知度が上昇したものの、「おいしい信州ふーど(風土)」の対象品目が「プレミアム」「オリジナル」「ヘリテージ」に限られるため、県民を広く巻き込む活動に限界があり、未達成になったも
		「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度(県外)	△	「おいしい信州ふーど(風土)」大使による県外向け発信活動やトップセールス等の実施により認知度は16.8%になったものの、目標に達成しなかった。
	22	県が主催する商談会における農業者等と食品産業等との成約件数	◎	自ら販路拡大を目指す農業者を対象に、商談会における営業力強化に向けた研修会を開催し、農業者のスキルアップを図ったことにより目標を達成した。
	23	農産物等の輸出額	◎	有望な輸入事業者の県内招へいや長野フェアによる県産農産物のPR等を実施し、主要な輸出先である香港・台湾へのぶどう・もも・市柿等を中心に年々増加したことから、目標を達成した。
	24	六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	◎	信州6次産業化推進協議会と連携したフォローアップ活動や総合化事業計画作成研修会等の開催を支援した結果、事業者の作成意欲が高まり目標を達成した。
④	25	都市農村交流人口	◎	農業農村の資源を活用したグリーン・ツーリズムにおける収穫体験などが地域の創意工夫により都市農村交流の全県的な取組となり、目標を達成できた。
⑤	26	農産物直売所数	○	地産地消に係る啓発活動等実施し、消費者の新鮮な農産物へ関心や食の安心・安全志向等の高まりにより、概ね目標を達成した。
	27	食育ボランティア数	◎	地域で生産される農産物の現状や地産地消の取組について、市町村や栄養士会等と連携した活動を行った結果、食育に対する機運が高まり、目標を達成した。
⑥	28	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	○	シンポジウムや研修会を開催し、事業制度の周知や機運の向上を図ったことにより、概ね目標を達成した。
	29	農業用水を活用した小水力発電の容量	◎	小水力発電の導入に係る研修会や支援制度の積極的なPRを行ったことにより事業者等の機運が向上し目標を達成した。
	30	農地等の安全確保面積(H25～H29)	○	ため池等整備事業等により、ため池の耐震化工事等を実施し、概ね目標を達成した。

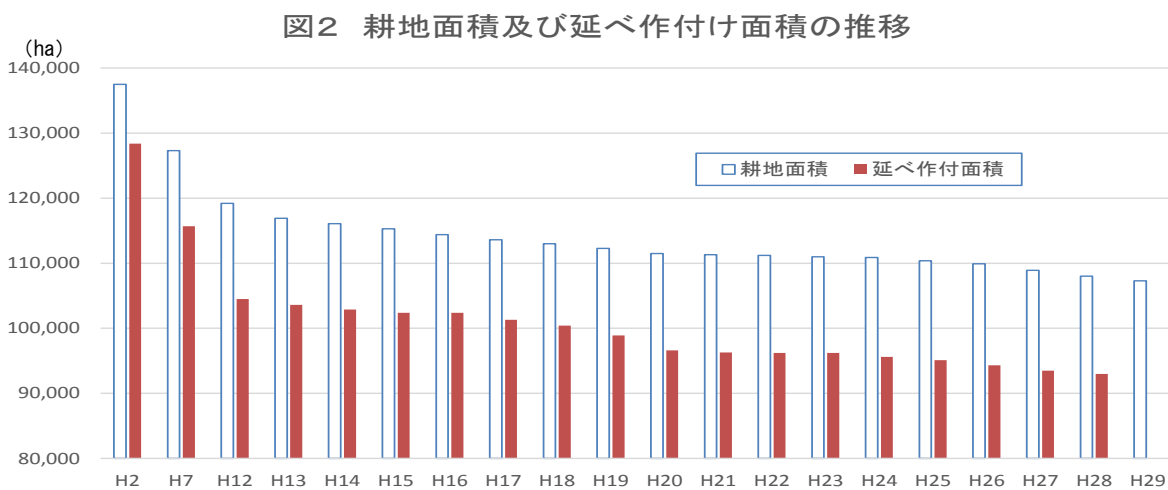
## 【参考】



(参考) 農産物産出額全国順位の推移(栽培きのこを含む)

年産	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
農作物全体	7	5	7	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	10	11	10	10	11	11	10	10	11	10	10	9	10
園芸作物	1	1	1	1	2	2	3	2	5	4	3	4	4	4	5	5	4	4	5	5	4	3	4	4	2	4	4

(園芸作物産出額全国順位は、いも類を含まない)



(参考) 耕地利用率の推移

年度	H2	H7	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
耕地利用率(%)	93.4	90.9	87.7	88.6	88.6	88.8	89.5	89.2	88.8	88.1	86.6	86.5	86.5	86.7	86.2	86.1	85.8	85.9	86.1

耕地利用率：延べ作付け面積／耕地面積